

## 知床世界自然遺産地域保全事業 News Letter（平成 30 年 7 月～9 月）

## （1）多様性に富むしれとこの森を復元する事業

7 月から 9 月にかけては、昨年新たに造成し、苗木の育成を始めた新しい苗畑での作業を進めました。大学の実習生やボランティアの皆さんなどにお手伝いをいただき、日々の水やりや草取りなどを行いました（写真 1-1~2）。

知床の森づくりはその開始から 21 年目を迎えています。この間、100 平方メートル運動地の中に大小約 20 基の防鹿柵を設置してきました。その中には、設置から 10 数年が経過し、老朽化が進んでいる柵もあることから、順次腐食が進んでいる木柱を交換するなどの改修作業を進めています（写真 1-3~4）。

100 平方メートル運動地内の各作業道の砂利入れや秋の作業に向けた植樹地の整備などを進めました（写真 1-5~6）。



写真 1-1. 苗畑の草取り作業（2018 年 7 月 4 日）。



写真 1-2. 苗畑の水やり作業（2018 年 7 月 26 日）。



写真 1-3. 老朽化した防鹿柵の改修作業（2018 年 8 月 26 日）。



写真 1-4. 柵に倒れこんだ倒木の除去作業（2018 年 9 月 30 日）。



写真 1-5. 作業道整備の状況 (2018年7月2日).



写真 1-6. 秋の植樹祭予定地の草刈り作業 (2018年9月14日).

9月20日(木)～23日(日)の日程で、14回目となるダイキン工業知床ボランティアを開催しました。当初、9月上旬に発生した地震による全道的な停電の直後だったため、開催も危ぶまれましたが、予定通り10名の皆さんにお越しいただき、羅臼町のルサ地区にて防鹿柵の設置作業を行いました(写真1-7～10)。



写真 1-7. 防鹿柵の設置作業 (2018年9月21日).



写真 1-8. 完成した防鹿柵 (2018年9月22日).



写真 1-9. 過去の作業地の見学 (2018年9月22日).



写真 1-10. 宿舎での夕食の様子 (2018年9月22日).



## (2) 世界遺産の価値を守り、伝える事業

### 1. 次世代へ知床の森をつなぐ活動への支援

知床の自然と 100 平方メートル運動の取り組みを伝えるため、地元の学校を中心に運動地での体験学習の引率などを行いました。この夏も斜里小学校の 4 年生 58 名が運動地を訪れ、作業体験や開拓の歴史に触れる機会を持ちました (写真 2-1)。また、夏休み期間を中心に知床自然センターを訪れる多くのお客さんに向けて知床の森づくりの様子をお伝えするスタッフトークを行っています (写真 2-2)。

この夏も 100 平方メートル運動地を歩く散策路「しれとこ森づくりの道」を開設しています。その内、知床自然センターを出発して開拓当時の家屋などを巡る「開拓小屋コース」は、9 月末時点で約 799 名の方々にご利用いただきました (写真 2-3~4)。



写真 2-1. 開拓当時の家屋を見学する斜里小学校 4 年生 (2018 年 7 月 10 日).

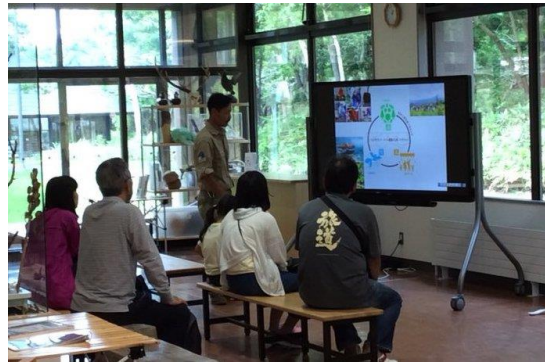


写真 2-2. 知床自然センターでのスタッフトークの様子 (2018 年 8 月 10 日).



写真 2-3. 開拓小屋コースから望む知床連山 (2018 年 9 月 6 日).



写真 2-4. コース沿いの開拓家屋の維持管理 (2018 年 8 月 20 日).

## 2. ヒグマと人の共存を手助けする活動への支援

稼働させた電気柵の維持管理作業を7月から随時行いました。具体的には、1週間に1度ほどの頻度で電圧の確認作業を行いました。電圧の低下が確認された区間では出来るだけ早く原因を特定して修繕し、漏電の原因となる草本の伸長が確認された区間では草刈りを行いました（写真 2-5）。

電気柵より海側（内側）でヒグマが目撃される事例は、第2四半期中に8件ありました。そのうち7件は、山側斜面の復旧工事のために電気柵が設置できなかった箇所や、電気柵の不備で十分な電圧が出ていなかった箇所から侵入されたと推測されました。残りの1件に関しては、電気柵は正常に稼働していましたが、ヒグマが侵入したと思われる地点の電気柵が倒れていたことからヒグマが電気柵を倒して侵入した可能性が考えられました。

ヒグマの出没を抑制する試みとして、草刈りによってヒグマの行動圏と人の生活圏の間に緩衝地帯を設ける活動を行っています。今四半期では、岬町2箇所と海岸町1箇所の計3箇所で新たに草刈りを行いました（写真 2-6）。この3箇所は頻繁にヒグマが目撃されたり、多数のヒグマの痕跡が確認されていた場所でした。草刈りを実施した直後は、ヒグマの目撃はありませんでした。しかし、草本が再び繁茂してしまうとヒグマが目撃されることがあったため、今後は草刈りの頻度や時期について検討していく予定です。



写真 2-5. 電気柵の草刈り作業.



写真 2-6. ヒグマ痕跡が多数確認された場所の草刈り作業後の様子.